

2026年3月期 第2四半期決算説明会資料 (本編)

2025年11月18日
大太平洋金属株式会社

当社ホームページ
<https://www.pacific-metals.co.jp/>
お問い合わせ先
総務部（IR担当）TEL:03-3201-6681

2026年3月期 第2四半期決算説明会資料（本編）

- 第1章 2026年3月期 第2四半期決算実績 p.3～6
- 第2章 2026年3月期 通期決算見通し p.7～9
- 第3章 「中長期戦略PAMCOvision2031」の進捗状況 p.10～19
- 第4章 付録 p.20～22

第1章 2026年3月期 第2四半期決算実績

2026年3月期 第2四半期決算実績

1. サマリー

	2024.9 実績		2025.9 予想 (8/7発表)		2025.9 実績		対 前年同期比 (%)	対 8/7発表 予想比 (%)
	金 額 (百万円)	利益率 (%)	金 額 (百万円)	利益率 (%)	金 額 (百万円)	利益率 (%)		
売上高	7,835	—	4,148	—	4,463	—	△43.0	7.6
営業利益 (△損失)	△4,468	△57.0	△4,434	△106.9	△4,042(*)	△90.6	—	—
経常利益 (△損失)	△2,316	△29.6	△2,039	△49.2	△1,086(*)	△24.3	—	—
親会社株主に帰属する 中間純利益 (△損失)	△1,877	△24.0	△2,187	△52.7	△1,095(*)	△24.5	—	—
(投資額)	178	—	—	—	246	—	38.2	—
(減価償却費)	172	—	—	—	193	—	12.2	—

(*)棚卸資産の簿価切り下げ額
4 億円を含む
(2025.9 実績)

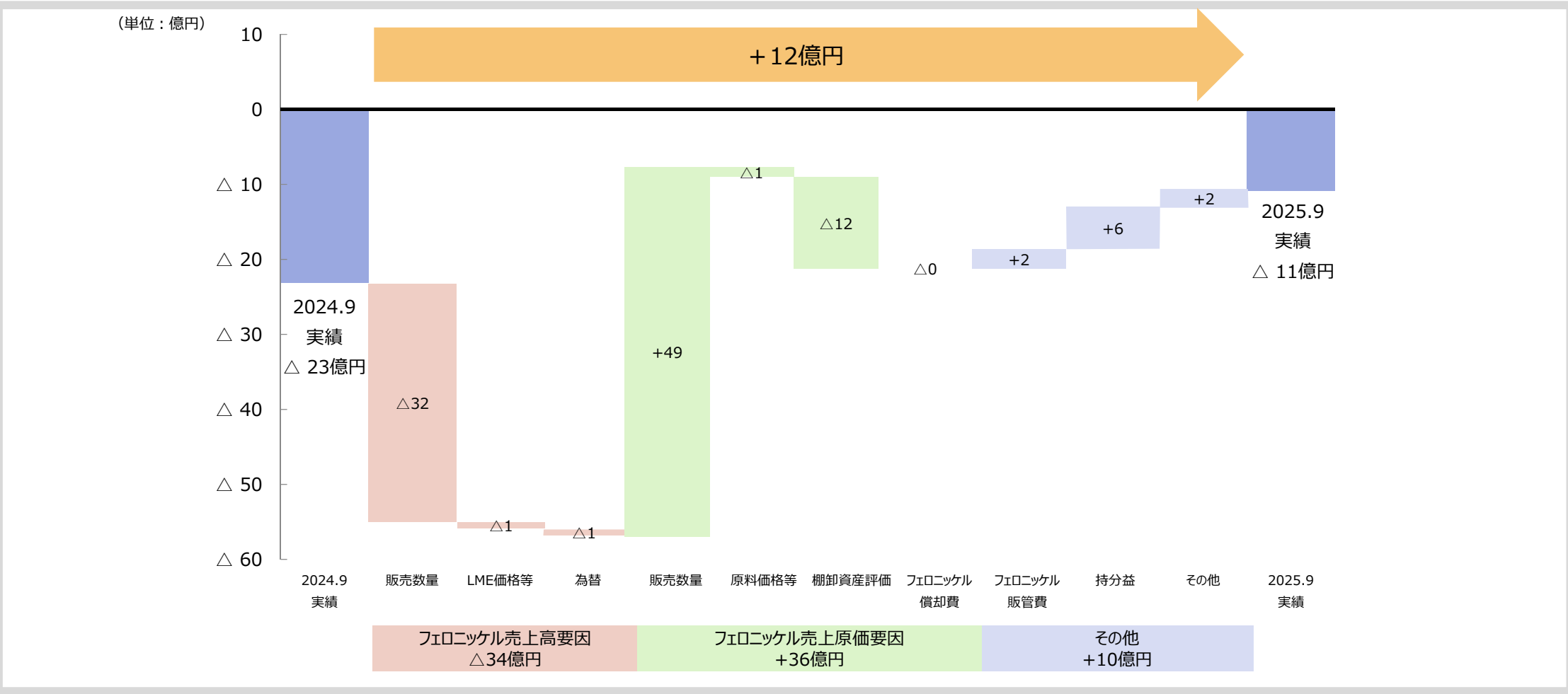
	2024.9 実績	2025.9 予想 (8/7発表)	2025.9 実績	対 前年同期比 (%)	対 8/7発表 予想比 (%)
生産数量 (Niトン)	2,010	1,830	1,787	△11.1	△2.3
販売数量 (Niトン)	3,284	1,734	1,890	△42.4	9.0
適用LME (US\$/トン)	17,747	15,344	15,322	△13.6	△0.1
[適用LME (US\$/lb)]	[8.05]	[6.96]	[6.95]		
適用為替 (¥/US\$)	153.32	146.95	147.83	△3.6	0.6

【フェロニッケル販売割合 (実績) 】
・国内向け : 100%

2. トピックス

販売環境	- 国内向け：安価な製品の輸入量が拡大し、ステンスメーカーの減産体制は継続 - 輸出向け：ステンレス市況の低迷等により先行き不透明
フェロニッケル需要	- 価格優位性が見られるニッケル銑鉄（NPI）へ調達がシフト - カーボンニュートラルを意識したステンレススクラップ配合比率見直しも見られ、鈍化傾向の推移
調達面	- ニッケル鉱石の価格は底堅いニッケル鉱石需要等を背景に価格高 - 諸原燃料価格は世界的に高水準、生産コストは高止まりが継続
LMEニッケル価格	中国景気の停滞、外国為替相場や金融資本市場の変動及び中東地域やウクライナ情勢の緊迫化等の複合的な要因が意識される中で、比較的狭いレンジで推移
フェロニッケル販売数量	一定の収益性を損なわない戦略的な数量抑制方針を継続したため、前年同期比42.4%の減少
フェロニッケル販売価格	- 当社適用平均為替レートは前年同期間比3.6%の円高 - 当社適用LMEニッケル価格は前年同期間比13.6%下落 - ニッケル銑鉄の価格も一部参考としたことから販売価格安、厳しい販売環境が継続

3. 連結経常損益分析



第2章 2026年3月期 通期決算見通し

2026年3月期 通期決算見通し

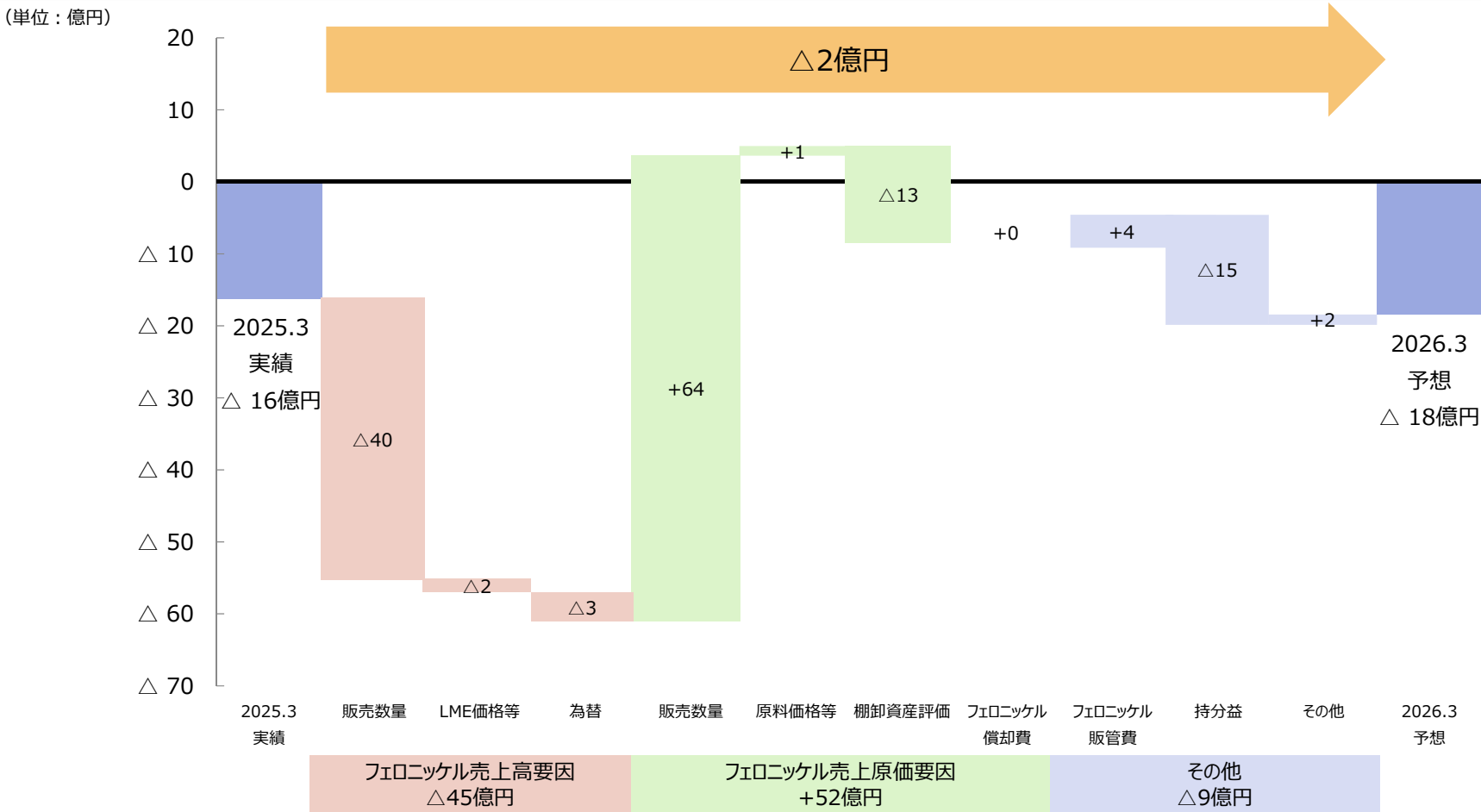
1. サマリー

	2025.3 実績		2026.3 予想 (8/7発表)		2026.3 予想 (10/31発表)		対 前期比 (%)	対 8/7発表 予想比 (%)
	金 額 (百万円)	利益率 (%)	金 額 (百万円)	利益率 (%)	金 額 (百万円)	利益率 (%)		
売上高	13,175	—	8,695	—	8,532	—	△35.2	△1.9
営業利益 (△損失)	△7,368	△55.9	△6,604	△76.0	△6,494	△76.1	—	—
経常利益 (△損失)	△1,622	△12.3	△1,428	△16.4	△1,840	△21.6	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 (△損失)	△1,667	△12.7	△1,636	△18.8	△1,880	△22.0	—	—
(投資額)	386	—	—	—	499	—	29.3	—
(減価償却費)	355	—	—	—	358	—	0.8	—

	2025.3 実績			2026.3 予想 (8/7 発表)	2026.3 予想 (10/31発表)			対 前期比 (%)	対 8/7発表 予想比 (%)
	上期	下期	通期		上期実績	下期予想	通期予想		
生産数量 (Niトン)	2,010	1,878	3,888	3,695	1,787	1,842	3,629	△6.7	△1.8
販売数量 (Niトン)	3,284	2,146	5,430	3,735	1,890	1,739	3,629	△33.2	△2.8
適用LME (US\$/トン)	17,747	16,138	17,108	15,388	15,322	15,278	15,300	△10.6	△0.6
[適用LME (US\$/lb)]	[8.05]	[7.32]	[7.76]	[6.98]	[6.95]	[6.93]	[6.94]		
適用為替 (¥/US\$)	153.32	149.85	151.94	145.46	147.83	144.41	146.19	△3.8	0.5

【フェロニッケル販売割合（見通し）】
・国内向け：100%

2. 連結経常損益分析



第3章 「中長期戦略PAMCOvision2031」 の進捗状況

1. 事業ポートフォリオ再構築について

これまでに種蒔きた新規事業分野への参入により、事業の多角化を図る	
金属製錬	世界に先駆けた海底資源の多金属ノジュール金属製錬事業 ・新たなコア事業として、多金属ノジュールの受託製錬事業を検討 ・商業規模の設備での多金属ノジュールの製錬試験に成功
電気	高圧・特高圧事業者向けの小売電気事業 ・地域の発電事業者と連携し、付加価値の高い地場の再生可能エネルギー電力を供給
機能材料	核融合発電及び既存ベリウム合金市場向けのベリウム事業 ・核融合発電の商業化を契機に核融合市場が大幅に拡大し、市場の半分はベリウムを必要とする核融合方式が見込まれる ・ベリウムを既存市場に供給し、潜在需要を顕在化することで既存ベリウム市場が成長
資源リサイクル	アマタHDとの協業によるカルシウムアルミネート製造販売事業 ・低炭素社会を背景に高炉から電炉へのシフトが進み、電炉鋼の不純物除去に必要なカルシウムアルミネートの需要が拡大

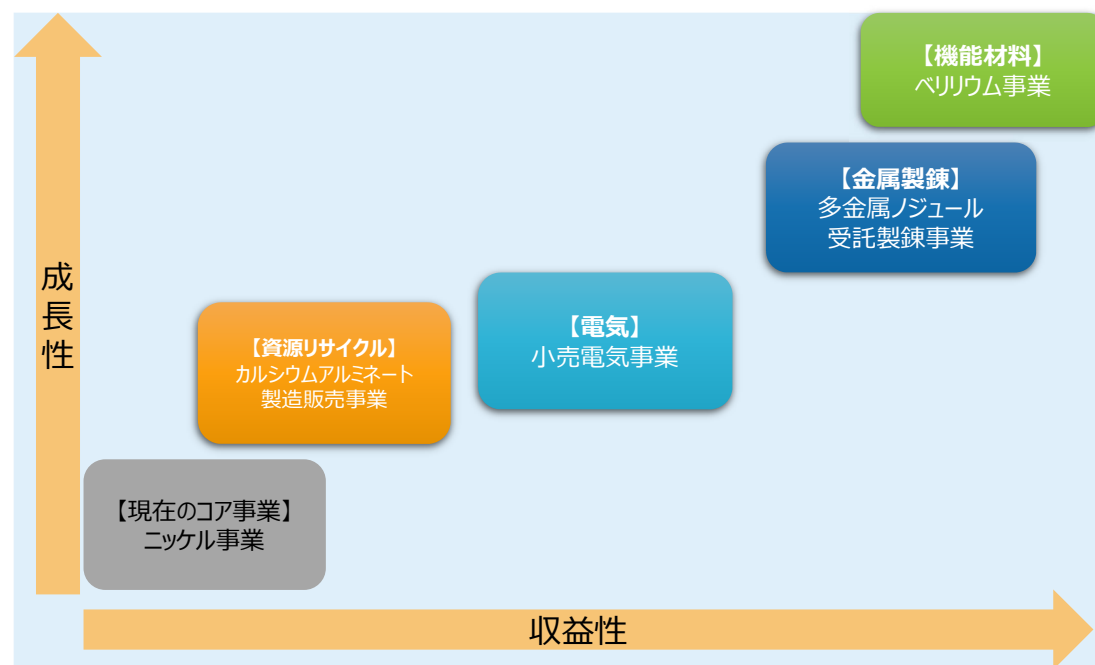
「中長期戦略PAMCOvision2031」の進捗状況

Copyright © PACIFIC METALS CO., LTD. All Rights Reserved.

 大平洋金属株式会社

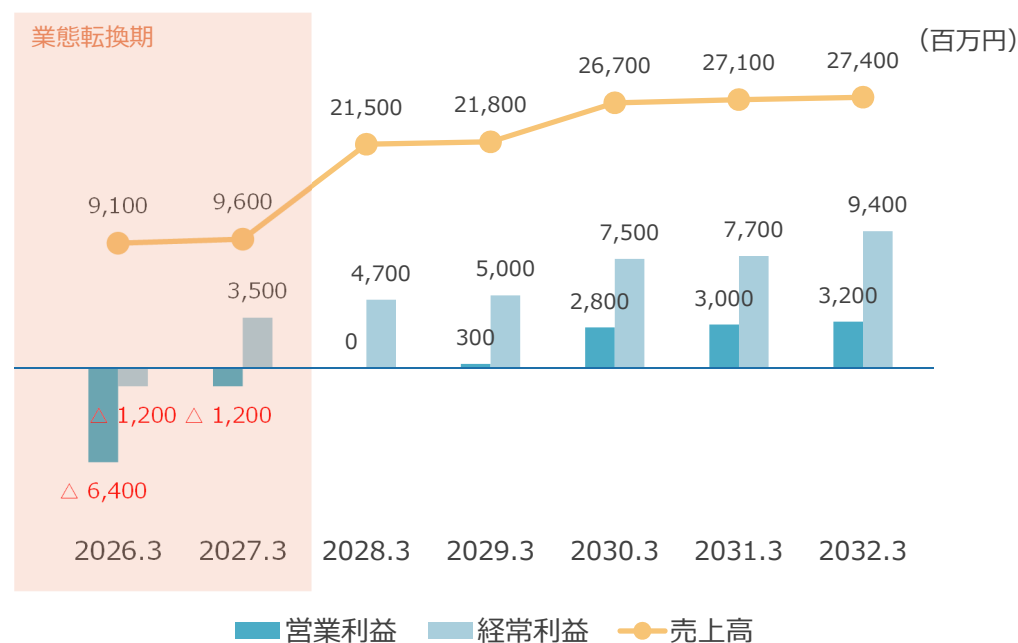
12

1. 事業ポートフォリオ再構築について



事業PF再構築

- ・業態をゼロベースで見直し新たなステージへ
- ・「中長期戦略PAMCOvision2031」の策定
- ・これまでに種蒔きた新規事業分野への参入により、事業の多角化を図る



7カ年損益サマリー

- ・資源製錬時のエネルギー関連基盤を維持するため一時期損失を計上するも、ニッケル事業の用途拡大および小売電気事業の立ち上げによって2028.3期から営業黒字化、安定した収益確保を目指す

「中長期戦略PAMCOvision2031」の 進捗状況

Copyright © PACIFIC METALS CO., LTD. All Rights Reserved.

 大太平洋金属株式会社

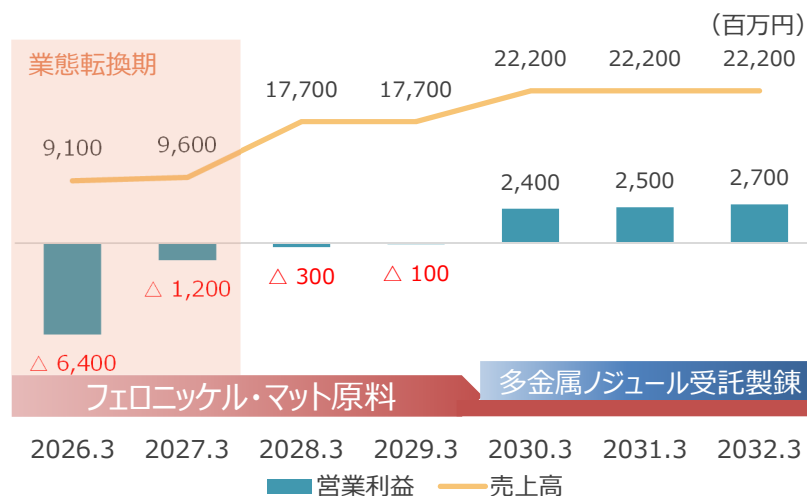
13

2. 各事業の進捗状況 ①金属製錬事業

事業戦略

- ・ニッケル事業は、**ステンレス原料向けの事業からマット原料向けに用途を拡大、転換も視野に**、事業損益の大幅改善を目指す
- ・また、資源製錬時に大量消費する**エネルギー関連基盤**は、新規事業においても活用することから、**速やかな利用とともに途切れない体制を維持**する
- ・多金属ノジュール事業は2030.3期から本格稼働、そのため、2026.3期～2027.3期の一定期間は業態転換のため業績の改善はスロー

事業損益サマリー



進捗状況

ニッケル事業 (マット原料 向け事業)

- ・マット原料向け事業に必要となるニッケルリサイクル資源の活用を検討
- ・この活用で現行のフェロニッケル事業の損失は抑制傾向へ
- ・継続的に調達できるようニッケルリサイクル資源の収集ルートを探索中

多金属ノジュール 受託製錬事業

- ・多金属ノジュール受託製錬に関するFS（フィジビリティ・スタディ）終了
- ・受託製錬コスト等を精査中
- ・設備投資については、投資金額・投資時期・発注部品など必要な投資のスケジュールを精査
- ・事業を幅広く展開するため、国内外の関係先と意見交換し、確実な事業化を目指す

「中長期戦略PAMCOvision2031」の進捗状況

Copyright © PACIFIC METALS CO., LTD. All Rights Reserved.

 大平洋金属株式会社

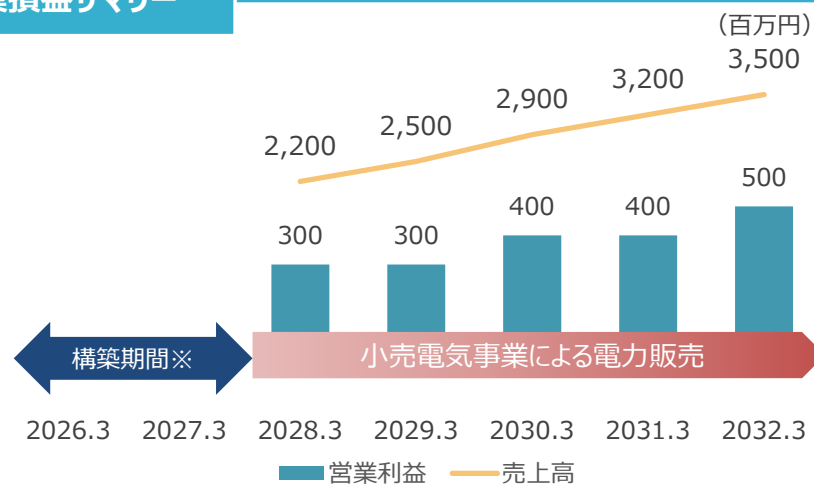
14

2. 各事業の進捗状況 ②小売電気事業

事業戦略

- ・小売電気事業者として、高圧・特高圧事業者向けの小売電気事業を立上げ、電気事業分野への進出を目指す
- ・地域の発電事業者と連携し、**付加価値の高い地場の再生可能エネルギー発電による電力を供給**する

事業損益サマリー



※構築期間：外販条件交渉期間のため、一定額の収益に限られる見込み

進捗状況

小売電力の 販売開始

- ・2025年4月～ 小売電力の販売開始（当社HPに「電力販売」のページを開設）
- ・主に東北エリアの顧客発掘を目指し、高圧・特高圧事業者向けの販売活動を展開中

電力事業部の 設置

- ・単なる電力の販売に留まらず、これまでの電力需給に係るノウハウを生かし需要家のニーズに応えられる事業展開をすべく、2025年10月から専門部署（電力事業部）を設置、体制を一層強化
- ・風力・太陽光・バイオマスなどの非化石エネルギーにより発電されたグリーン電力の供給も併せて展開

VPP市場への 参入

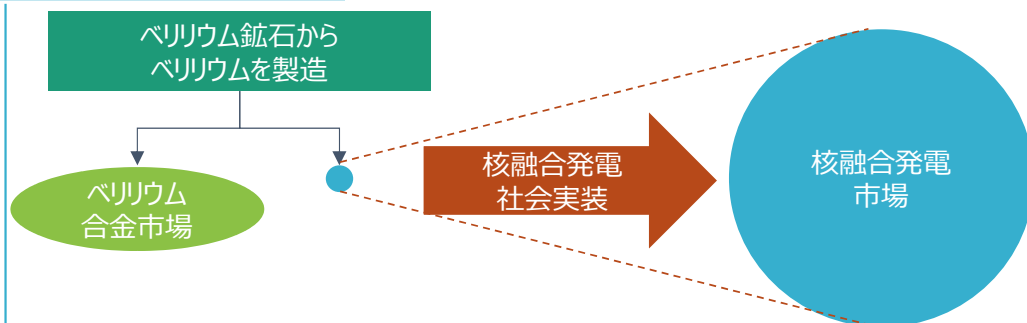
- ・その他、「VPP(Virtual Power Plant：仮想発電所)市場」へ参入、電力負荷の調整力を生かし、収益の底上げを進める

2. 各事業の進捗状況 ③ベリリウム事業（1）

事業概要

- ・ベリリウム鉱石からベリリウム製品を製造し、将来的に核融合発電市場及び既存のベリリウム合金市場に販売する事業
- ・ベリリウムは核融合発電に必要不可欠であるが、現状では「価格が高すぎる」「生産量が足りない」という問題があり、核融合実装は困難
- ・従来技術では2,000℃での高温処理が必要であり、高コスト
- ・2024年10月 MiRESSO社と包括的業務提携契約を締結

核融合発電市場 拡大のイメージ



※核融合発電の社会実装には期間を要するため、その間、核融合発電実証及び既存のベリリウム合金市場へベリリウムを供給する

当社が取り組む意義

- ・MiRESSO社は、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構(QST)からスピンアウトした認定ベンチャーで青森県に拠点を置き、「ベリリウム事業」の事業化により、核融合発電の社会実装に貢献することを目標としている
- ・当社は古くから青森県八戸市に拠点を置き、各種鉱石から金属を製造した設備、インフラ、知識、経験及び実績を持ち、「ベリリウム事業」の事業化に多くの点でシナジーの創出が可能

ベリリウム合金市場の 成長背景

航空・軍事	軽量化・高強度化ニーズの高まり、民間航空機等の構造部材や精密部品への採用が増加
自動車	EV普及と自動車部品の高機能化、CO2排出削減のための車重量化
エレクトロニクス	デジタル化の加速により高速伝送・低損失性質を持つ素材及び高機能接点・コネクタの需要拡大
ヘルスケア	X線装置向け窓材の利用の増加及び先進医療技術の加速

「中長期戦略PAMCOvision2031」の 進捗状況

Copyright © PACIFIC METALS CO., LTD. All Rights Reserved.

 大平洋金属株式会社

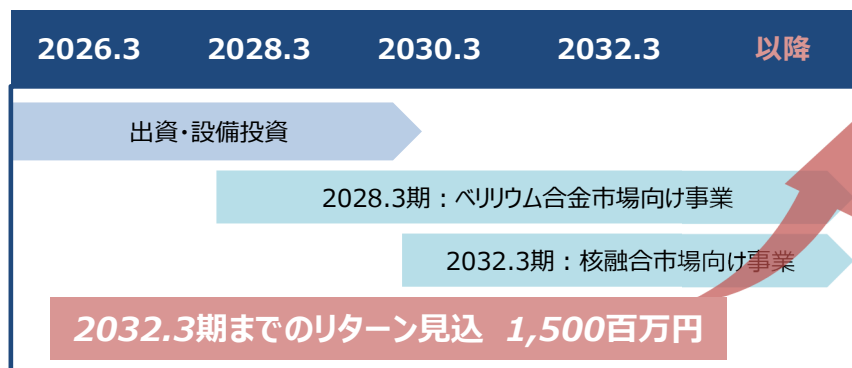
16

2. 各事業の進捗状況 ③ベリリウム事業（2）

事業戦略

- ・MiRESSO社の革新的な製錬技術による製造コストダウン及びEV拡大を背景に、エレクトロニクス用途の需要拡大が見込まれる
- ・MiRESSO社との包括的業務提携を締結、当社リソースを活用するとともに当面出資参画
- ・**ベリリウム合金市場向け事業に参入**し、将来的に**核融合市場向け事業への事業参画・参入**を目指す

事業損益サマリー



**核融合発電の社会実装が見込まれる
2036.3期までに投資回収が可能**

進捗状況

株式会社 MiRESSOとの 資本業務提携 契約締結

- ・2025年7月29日、株式会社MiRESSOとの資本業務提携契約の締結および第三者割当増資（※）の引き受けの実施
- （※）当社製造所内にMiRESSOのベリリウム製造パイロットプラント「BETA」（Beryllium Testing plant in Aomori）の建設に関する投資として第三者割当増資15億円を引き受け

パイロット プラント 「BETA」

- ・パイロットプラントは2026年度中には当社製造所内へ完成予定
- ・製造および販売の展開を速やかに行うため、体制を整備中
- ・現在、進行状況は順調

ベリリウムの 生産増へ

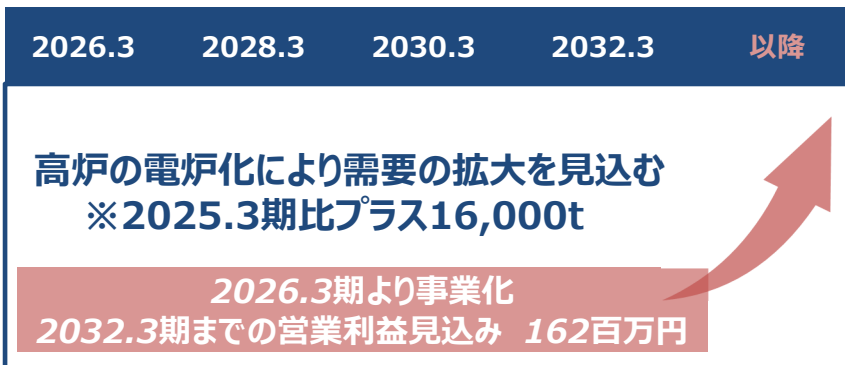
- ・ベリリウムは生産量が少ないためメジャー品ではないが、幅広い用途で活用でき、優れた材料であるため、顧客基盤を拡大し、生産量増を目指す

2. 各事業の進捗状況 ④カルシウムアルミネート製造販売事業

事業戦略

- ・高炉の電炉化により、脱硫材・造滓材としてのカルシウムアルミネートの需要**拡大**が見込まれる
- ・アマタHD社との協業によるカルシウムアルミネート製造販売事業を立上げ、環境リサイクル事業を目指す
- ・**これまでの事業で培った技術を活用**し、リサイクル原料の付加価値化を図る
- ・低炭素社会を背景に高炉から電炉へシフトする中、電炉鋼の不純物除去に必要なカルシウムアルミネートの需要拡大に対応する

事業損益サマリー



2032.3期以降も需要の増加が見込まれる

進捗状況

本格的な 事業開始予定

- ・2025年度下期より、本格的に事業を開始し、アマタHD社との協業にて、これまでサンプルで使用していただいた顧客を中心に脱硫材・造滓材として販売を展開予定

事業計画達成 のための活動

- ・製造：リサイクル原料の活用拡大によるコスト低減
カルシウムアルミネートの高付加価値化
- ・販売：試験使用いただける顧客の開拓
別用途への販売検討



製造実証試験



カルシウムアルミネート5-30mm

3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について ①企業価値向上に向けた取り組み

資金使途のイメージ



中長期戦略の遂行で資本コストや株価を意識した経営の実現を目指す

利益配当金

- 資本収益性を向上させるための成長投資への資金を確保するとともに株主還元のバランスを総合的に勘案し、株主の皆様へ安定した配当を行う姿勢を明確にするため、従来の配当性向30%目処を改め、**株主資本配当率 (DOE) 4%**目処を新たな指標として導入（2025年2月）

内部留保金

- 経営環境の変化に機能的に対応するための基金とするとともに、**事業投資**、設備投資及び**資本政策の一環として自己株式取得、等々**に活用

「中長期戦略PAMCOvision2031」の 進捗状況

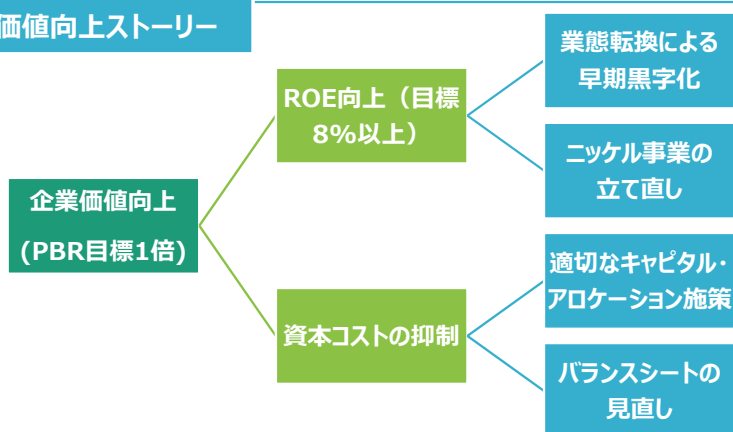
Copyright © PACIFIC METALS CO., LTD. All Rights Reserved.

 大太平洋金属株式会社

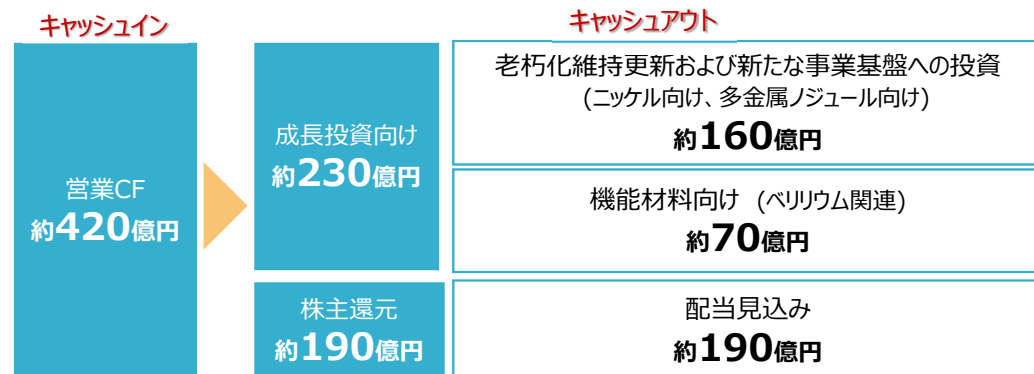
19

3. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について ②進捗状況

企業価値向上ストーリー



キャピタル・アロケーション



主な取り組み

自社株買いの実施	・2025年6月 実施（約36億円）
株式報酬制度導入	・2025年5月 経営陣の企業価値向上のインセンティブおよび株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的に導入
株主・投資家様との対話の実施	・決算説明会：1回実施（2025年5月） ・個別面談：5-6月 5回、8-9月 11回実施 ・個別面談での主な議論テーマ： 既存事業の収益改善策、中長期戦略の進捗 ⇒対話内容は定期的に取締役会へ報告 ⇒IR活動全般にフィードバック

進捗状況

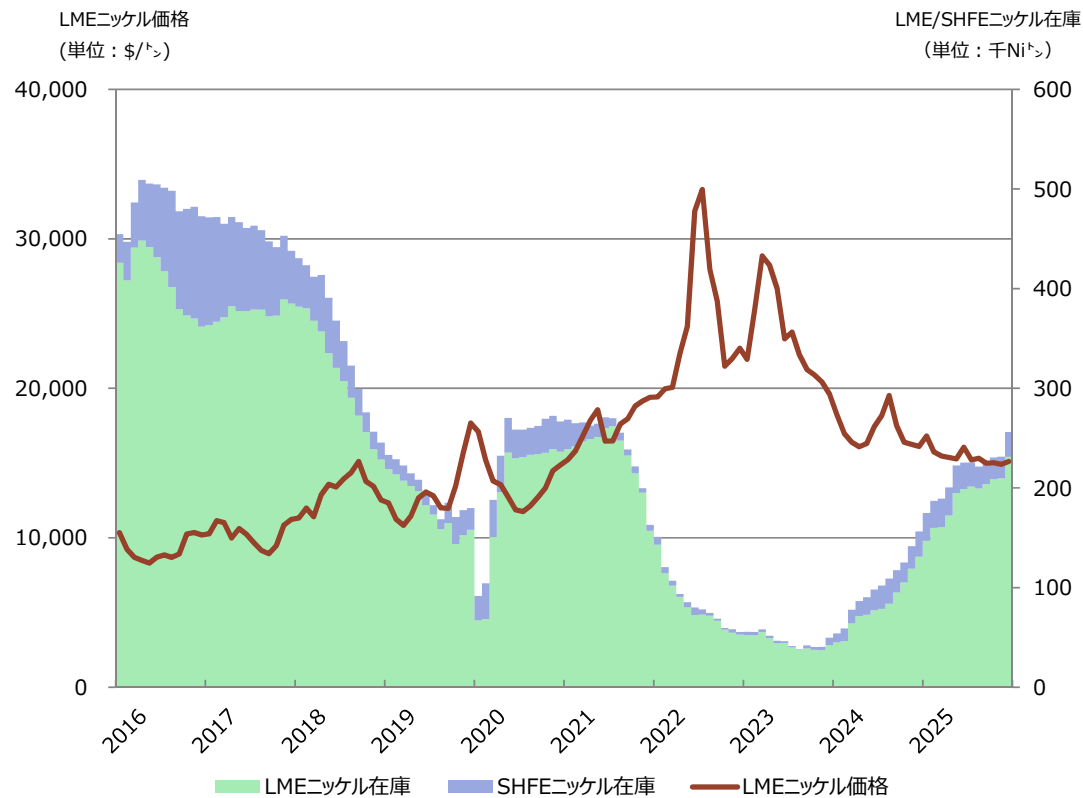
老朽化維持更新・新規事業投資	・2025.9実績 2億円
機能材料向け投資	・2025.9実績 15億円
株主還元	・2025.9中間配当 10億円

第4章 付録

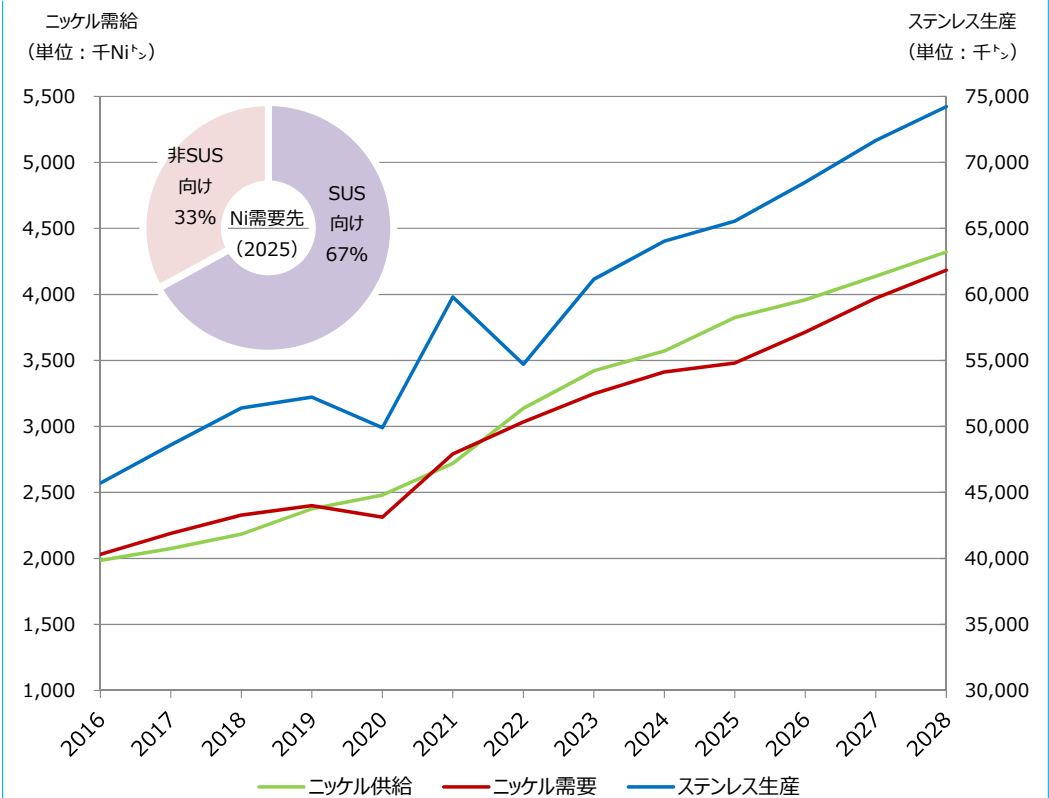
1. ニッケル市場の動向①

※当社調べ

ニッケル価格と在庫の推移



ステンレス生産とニッケル需給の推移

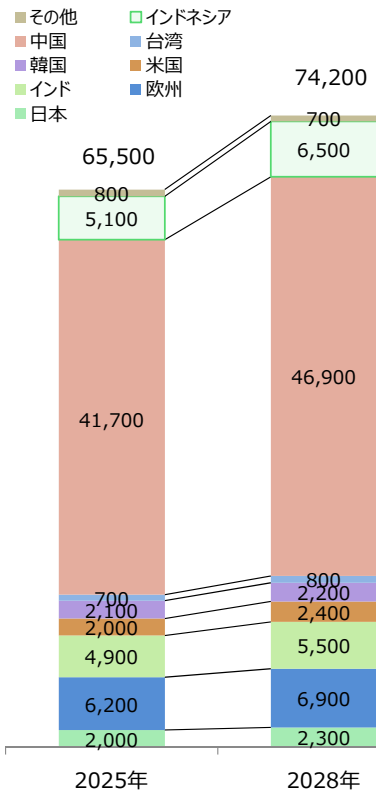


1. ニッケル市場の動向②

※当社調べ

ステンレス生産見通し

(単位：千トン)



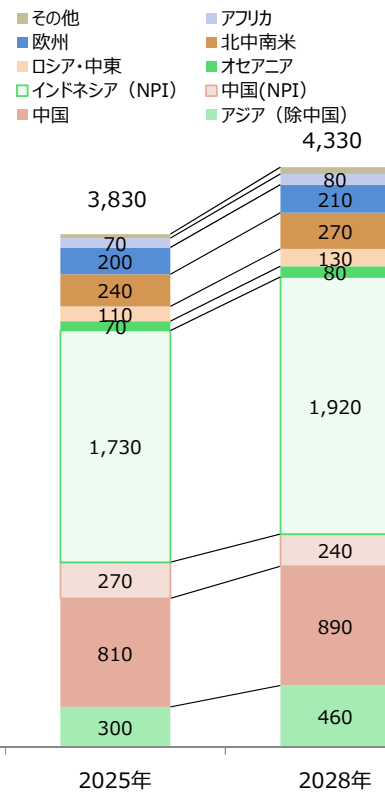
ニッケル需要見通し

(単位：千トン)

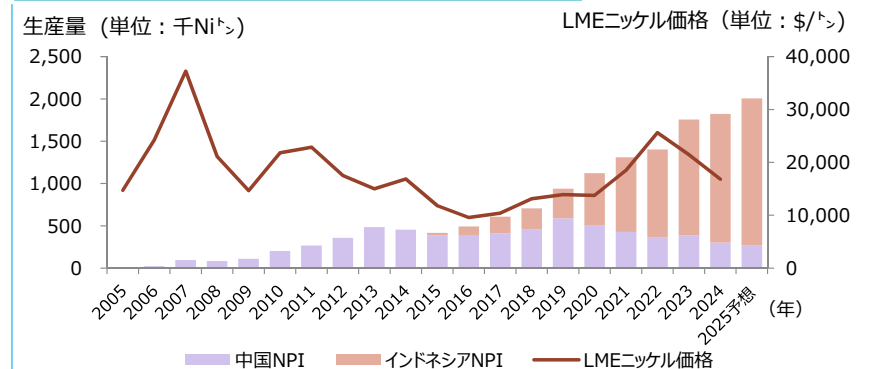


ニッケル供給見通し

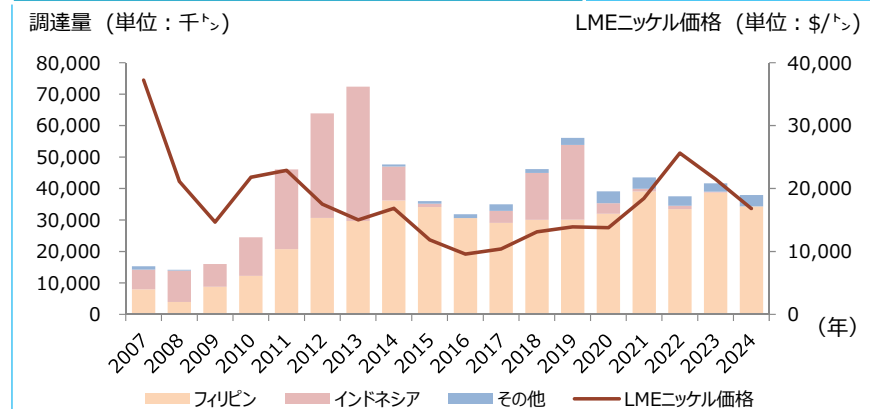
(単位：千トン)



ニッケル銑鉄 (NPI) 生産量の推移



中国のニッケル鉱石調達量の推移





本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手された情報に基づくものであり、今後、発生する状況の変化により実際と異なる結果となることがあります。
従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。
本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。